

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	遊び、学び、繋がる地域の拠点「みんなの村づくり」
事業主体 (連絡先)	認定特定非営利活動法人フリーキッズ・ヴィレッジ (0265-94-5028)
事業区分	②保健、医療、福祉の充実に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,455,981 円 (うち支援金 : 2,473,000 円)

事業内容

水曜日のこどもカフェ活動を続けて、さらにたくさんの子どもに「みんなの村」が居場所として選ばれるようにするだけでなく、火曜日、木曜日の日中も不登校の子ども達が来られる場所「フリースクール」として開放した。また、より快適な場所になるためにみんなの基地をワークショップで改造した。

- 水曜日！みんなの村こどもカフェ (放課後)
地域の大人と共に、補助食 (おやつ) 作りと遊び場開放を行った。
- 火曜日、木曜日！みんなの村フリースクール (9:00~14:00)
専門家と共に不登校の子どもの学習・発達支援も行った。
- みんなの基地改造ワークショップ
 - ・壁作り、床張り、ベンチ作りワークショップ
 - ・ヒートベンチ&ロケットストーブ作りワークショップ

事業効果

- ① 異年齢の仲間と遊び、学ぶことを通して満たされ、お互いに信頼関係が生まれていく様子が見えた。
- ② 子ども達の学習支援ができる環境を整えたお陰で、どんな状況の子どもたちも、地域の大人が見守る中で安心して過ごせるようになった。
- ③ みんなの基地作りワークショップを通して、自然素材でみんなまで1つの物を作る喜びを共感し、また具体的な技を学べることもでき、今後の暮らしへ活かせることができた。
- ④ 教育委員会からの「中間教室」としての認可は難しかったが、助成金3年目の集大成として、学校以外の学びの場を、整えることができた。今後の活動に活かしていける場である。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

3年の活動を通して、子ども達の居場所として選ばれるようになり、昨年度から毎日開催するフリースクールが立ちあがった。フリースクール自体は伊那市の中間教室扱いの認可は下りなかったこともあり、一度終わるけれど、今後も家や学校に居場所のない子ども達の「地域の居場所」となるため、助成金を頂かなくても活動を続けていく方法を模索している。例えば、農作業をしているところに子どもを受け入れる、そういった家庭に登録してもらって、子どもが選んで出向くことができる方法だ。また今回改造して快適になった小屋を、手作り品を生み出す場として大人が活動している傍らで子ども達が遊び育っていく計画も出ている。この3年の活動を通して、子ども達に必要な活動を知り、またこの地域にはその活動に必要な人材が豊富にいることも分かった。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【WSの最後に】

【目標・ねらい】

- ① こどもの生きる力を育む
- ② 異年齢の交流
- ③ 安心な地域の居場所をつくる
- ④ 不登校の子どもの発達、学習支援

※自己評価【A】

【理由】

- ・不登校の子どもたちにも欠かせない場としてフリースクール活動を充実させることができた。
- ・来年度の活動方針が見えた上に、活動協力者も増えてきた。